



進藤 奈邦子 (しんどう なほこ)

WHO (世界保健機関)  
感染症ハザード シニアアドバイザー

東京慈恵会医科大学卒、専門は内科学、感染症学。英国セントトーマス病院、オックスフォード大ラディクリフ病院、慈恵医大内科学講座での臨床研修を経て、国立感染症研究所、感染症情報センター主任研究官として勤務。

2002年よりWHOに派遣、2005年よりWHO職員。感染症アウトブレイク情報の収集と解析、フィールドレスポンス、インフルエンザ流行防止策などを担当。SARS、トリインフルエンザ、インド洋津波、アフリカでのウィルス性出血熱、新型インフルエンザ、中東呼吸器症候群コロナウイルスなどのWHOレスポンスを担当。

2012年1月よりインフルエンザ及び呼吸器系疾患のチームリーダー。2013年1月よりさらに担当範囲を広げ、新興・再興感染症の臨床管理および研究アジェンダ、ウイルス感染症に対する新戦略イニシアチブBRaVeを率いる。緊急事態にはWHO戦略的健康危機管理センターのスタッフとして行動し、世界的な健康危機となる重症急性呼吸器系疾患や鳥インフルエンザ、エボラ出血熱のアウトブレイクを担当。チームと共に世界各地で、極めて伝染性・危険性の高い病原体の感染制御・患者治療に関わる。2015年7月に調整官(上級管理職)に就任。重症感染症患者の集中医療管理とサイエンスの最先端をつなぐ特殊ネットワークWHO EDCARNを組織、21世紀型感染症アウトブレイク対策を展開する。WHOの危機対応強化をねらう組織改革に伴い、2016年10月にEDCARNに加え、新設されたラボネットワーク、モデリング・予測ネットワークを束ねるマネージャー(管理調整官)に任命される。2018年1月よりシニアアドバイザーとしてWHOの感染症危機管理のブレイン役を勤める。